

## 抄 録

### 第12回 信州脳神経外科研究会

日 時：平成27年10月23日（金）

場 所：信州大学医学部附属病院外来棟 4 階研修室 4 - 5

#### 講演 I

頭蓋頸椎移行部病変に対する high cervical retropharyngeal approach

—その適応と利点について—

Surgery for the Pathologies Located in Craniovertebral Junction with a High Cervical Retropharyngeal Approach

信州大学医学部脳神経外科

○中村 卓也, 青山 達郎, 伊東 清志  
本郷 一博

Key words: chordoma, craniovertebral junction, high cervical retropharyngeal approach

【目的】上位頸椎, 頭蓋頸椎移行部の病変に対する外科的アプローチには様々な手技が報告されているが, それぞれ利点, 欠点がある。我々は, 外側に進展し固定を併用する必要がある病変に対しては high cervical retropharyngeal approach を施行している。このアプローチの特徴は, 上下左右方向への広い術野の確保が可能である点, 清潔な術野で手術計画を立てることが可能である点である。手術ビデオにて手術操作の解説をし, 本アプローチの有用性について, 報告する。

【対象】64歳女性。増悪する右上肢のしびれ, 脱力を認めた。MRI でC2下縁からC4下縁レベルで脊柱管内の硬膜外に頸髄を取り巻く20 mm 大の腫瘍を認めた。腫瘍はC3椎体の右半分を破壊し椎間孔から神経根に沿って外側に進展していた。この症例に対し我々は清潔な術野のもと椎体前外側の腫瘍摘出およびチタン製インプラントを使用した脊柱管再建が必要になると考え, まず後方アプローチによる脊柱管後方成分の腫瘍摘出を行い, 続いて high cervical retropharyngeal approach による脊柱管内前方, 椎骨動脈および神経根周囲の腫瘍の摘出を行った。下顎骨直下に皮膚

切開を置き, 上喉頭神経, 舌下神経をナープチェッカーで確認し愛護的に操作しながらC1前弓およびC3, 4の椎間孔を確認した。腫瘍を全摘出したのちC2-4に腸骨およびチタン製プレートによる椎体再建を行った。病理診断は脊索腫であった。術後は一時的な嚥下障害を認めたのみであった。術後MRI で明らかな残存腫瘍は認めなかったが陽子線治療を行い, 再発はなく経過良好である。

【考察】high cervical retropharyngeal approach は, 一般的に上位頸椎の正中病変に対して行われる経口到達法と比較して, 上下および側方に対して術野を制限なく拡大することができ, またインプラントを使用した際には口腔内の常在菌による感染が起りにくい。留意点としては上喉頭神経の障害による術後嚥下障害などが挙げられるが, これに対しては術中ナープチェッカーの使用が有用である。

【結論】high cervical retropharyngeal approach は, 清潔な術野を保ち, 頭蓋頸椎移行部病変に対する優れたアプローチの一つであると考えられた。

#### 講演 II

脳卒中センターでの心原性脳塞栓症治療について

長野市民病院脳卒中センター長  
草野 義和

#### 特別講演

座長：信州大学医学部脳神経外科学教室教授  
本郷 一博

「脳神経外科手術における脳静脈還流障害：  
基礎と臨床」

奈良県立医科大学脳神経外科教授  
中瀬 裕之

## 会 報

### 平成28年信州医学会総会議事録

日 時：2016年3月3日(木), 15:00~15:30

場 所：信州大学医学部第二会議室

開会の辞 多田 剛  
 会長の挨拶 池田修一  
 議長選出 多田 剛 (医学教育研修センター) に  
 決定

### 議 事

- 1 平成28年・29年運営委員および監事選挙結果報告  
 次の諸氏が選出された。

#### <運営委員>

伊藤研一, 菅野祐幸, 小泉知展  
 花岡正幸, 森田 洋, 鷺塚伸介

#### <監 事>

栗田 浩, 塩沢丹里

以上, 承認された。

- 2 平成28年運営委員会・編集委員会構成の承認

#### <運営委員会>

委員長 多田 剛  
 副委員長 石塚 修  
 委 員

伊藤研一, 今村 浩, 梅村武司  
 菅野祐幸, 小泉知展, 駒津光久  
 中山 淳, 花岡正幸, 本郷一博  
 森田 洋, 鷺塚伸介

なお, 下記の1名が委嘱運営委員として推薦された。

藤本圭作 (保健学科)

#### <編集委員会>

委員長 今村 浩  
 副委員長

石塚 修, 伊藤研一, 菅野祐幸  
 小泉知展, 駒津光久, 多田 剛  
 中山 淳, 花岡正幸, 本郷一博  
 鷺塚伸介

#### 委 員

浅村英樹, 池田宇一, 市川元基  
 梅村武司, 大森 栄, 岡田健次

奥村伸生, 小柳清光, 加藤博之  
 川 茂幸, 栗田 浩, 齋藤直人  
 坂口けさみ, 沢村達也, 塩沢丹里  
 鈴木龍雄, 関口健二, 竹下敏一  
 田中榮司, 谷口俊一郎, 寺田信生  
 能勢 博, 野見山哲生, 樋口京一  
 深澤佳代子, 福嶋義光, 藤本圭作  
 本郷 実, 本田孝行, 間宮敬子  
 宮川眞一, 森田 洋, 山田光則  
 山田充彦, 吉田邦広

#### <会務部>

森田 洋 (部長), 梅村武司 (副部長)

#### <監 事>

栗田 浩, 塩沢丹里

以上, 承認された。

- 3 平成27年事業報告

27年新倉編集委員長欠席により事務局より下記の報告があった。

信州医学雑誌63巻1号から6号まで順調に発行でき, 総説6編, 原著論文5編 (全て英文), 症例報告5編 (英文2編), 短報1編 (英文) が掲載され総頁数は419頁であった。投稿論文は18編 (英文12編, 依頼総説は除く) あり英文論文の投稿・掲載が増えてきている。

- 4 平成27年決算報告

事務局より別紙・決算書に基づき説明があり, 承認された。

- 5 平成27年監査報告

小池監事により下記の報告があった。

「本年1月19日, 平成27年1月1日から12月31日までの会計監査を多田運営委員長立ち会いのもと栗田監事と行った。帳簿, 書類, 通帳, その他正しく整理されており適正に処理されていた」

以上, 承認された。

- 6 平成28年事業計画

今村編集委員長より, 下記の説明があった。

「本年も6号刊行予定であり, 64巻1号は既刊, 2号は現在校正中であり, 3号以降は準備中であり順調に推移している」

- 7 平成28年予算計画

森田会務部長より別紙・予算書に基づき説明があ

り承認された。

- 8 第15回信州医学会賞授与式  
池田会長より授与された。

**原著論文部門**

清水 明 他（外科学第一教室）

『Effect of Application of Subcutaneous Suction Drainage with Subcuticular Sutures for Wound Closure on the Incidence of Incisional Surgical Site Infection following Elective General Abdominal Surgery : A Randomized Controlled Trial』

(信州医誌 63 : 91-101, 2015)

**症例報告部門**

本山博章 他（外科学第一教室）

『An Initial Case Report of a Laparoscopic Spleen-Preserving Distal Pancreatectomy for a Patient with a Pancreatic Metastasis of Malignant Melanoma』

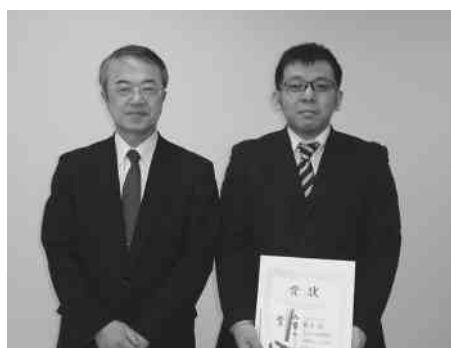
(信州医誌 63 : 19-24, 2015)

9 その他

昨年名誉会員制度の見直しが協議され、13名の名誉会員に雑誌送付の継続希望を伺ったところ9名から希望があり、引き続き名誉会員制度は継続することとなった。

閉会の辞 多田 剛

以上



第15回信州医学会賞授与者  
会長より授与された清水先生（左）、本山先生（右）